



〒 399-0711 長野県塩尻市大字片丘字南唐沢 6342-4
TEL (0263) 53-8802 FAX (0263) 51-1290 E-mail : kikaku@edu-ctr.pref.nagano.jp

目次

校内研修支援のひろば	1
学力を高める授業のポイント	2
センター研究発表会（2月17日）のお知らせ	4
研修講座から	5

校内研修支援のひろば

今回は、算数の授業形式の校内研修支援の様子を紹介します。

小学校での校内研修支援
(平成28年10月実施 90分)

<学校のニーズ>

- 高学年の算数の授業(分数または小数単元のある1時間)を例に、実際に模擬授業を行っていただき、我々教員が児童の立場になって受ける。
- 1時間の授業を展開する際の場面ごとの指導ポイントについて教えていただく。
- 効果的な板書の書き方・まとめ方等も教えていただけたとありがたい。

<研修内容等>

- ◇全国学力・学習状況調査(算数)の結果を踏まえた授業改善の視点の説明
- ◇次期学習指導要領において目指す今後の教育のあり方についての説明
- ◇先生方を対象とした模擬授業を通して、授業のあり方や板書について体験的に学ぶワークショップ

<受講した先生方の声>

- ・実際に教科書にある問題を通しての模擬授業であり、とてもわかりやすかったと思います。
- ・子どもに“何を考えさせるか”をもっと事前に考えなければいけないと思いました。
- ・板書や、課題把握、どのように考えさせるのかについて改めて考えられて楽しかったです。

お役に立ててよかったです。



ミガコ先生

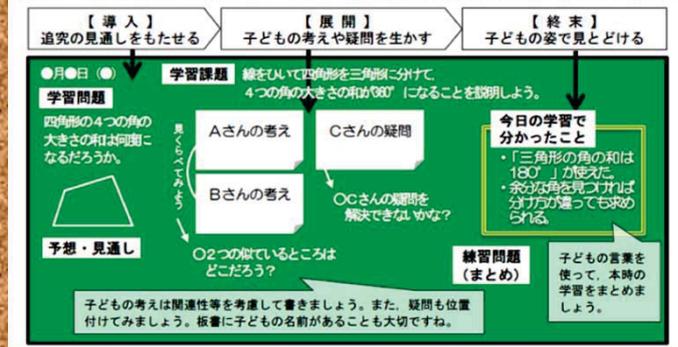
当日の資料から

「板書計画」って
どのように考えればいいのか？



一時間の授業で、どのように黒板を使うかを考えてみましょう。これは、「授業構想」そのものです。自分が教材研究してきたことを板書でどのように表現するのかを考えてみましょう。分かりやすい板書は、子どもの理解の高まりや思考の深まりを促します。

○まず、一時間の授業の流れを思い浮かべながら、黒板のどの位置に何を書くかを考えてみましょう。



信州“Basic”～授業づくりのポイント～より
<http://www.edu-ctr.pref.nagano.jp/kjouhou/sinsyubasic/basic.pdf>

学力を高める授業のポイント



トモニ先生

音楽では、子どもたちが自信をもって主体的に音楽活動に取り組むことができるように、技能を高めるだけでなく、子どもたちが音楽を知覚・感受しながらその音楽が自分にとって心地よいものとなっているか判断できる力を高めることも大切なんだよね。その力を高めるために、グループ学習を取り入れていきたいな。

でも子どもたちは、いつも全体で歌う時は元気なんだけど、グループ学習になると急に静かになっちゃうんだよね。グループ学習でも生き生きと追究できるようにするためにはどうしたらよいのかな？



ミガコ先生



つなぐ先生



上のようにふるさとの1段目と2段目を、強弱をつけて歌えるように表現の工夫をグループで追究させる授業を構想するとする。

トモニ先生やミガコ先生だったら、この授業のねらいをどうやって子どもたちに伝えるかな？

音楽編

ぼくは、まず1回みんなで歌ってから楽譜をみせて「強弱記号に気をつけてグループで表現を工夫しましょう」というかな。



私だったら、まず強弱記号をつけた歌い方と強弱記号をつけない平坦な歌い方をみんなで歌ったり、私が歌って聴かせたりして「聴き比べ」をさせて、気付いたことを出し合う時間をとるな。子どもたちが「強弱がついていると表現が豊かになるな」ということに気付けば、「表現したい」という思いが高まると思う。



実際に音を聴いてから追究に入ることは、子どもたちの「表現したい」という思いが高まるだけでなく、本時で扱う教材となる音楽について知覚・感受し、活動のイメージや「自分はこうしたい」という思いや意図をもつことにも有効だね。

なるほど、実際の音を聴くことによって、思いや意図をもたせることが、子どもたちが意欲を高めるために大切なんだね。





でも、それだけでグループ活動が活発に行われるかと言えば、まだまだ他にも準備しておくことがあるような気がする。「グループ学習ではどこに気を付けて活動したらいいかわからない」「友だちと何を話し合えばいいかわからない」と言っていた子どももいたな。



いいところに気が付いたね。グループ学習では、仲間と関わり合いながら表現を高めていくから、グループのメンバーが同じ視点をもっていないといけないね。「聴き比べ」の活動などから知覚・感受したことを手がかりに、どこを工夫して表現を高めていくのか、具体的に示してあげることが必要だね。



ただ「強弱を工夫しよう」じゃなくて、「フレーズの山を感じて強弱を工夫しよう」や、「静かに落ち着いて終わるようにデクレッシェンドの工夫しよう」など、子どもたちが「聴き合う視点」をもてる学習課題を設定すると、子どもたちだけでも、その視点をもとに話し合ったり試したりして、表現を高めていくことができるね。

子どもたちがその視点から、その音楽が自分にとって心地よいものとなっているか判断したり、判断したことを言葉で伝え合ったりすることができるね。それが、子どもたちが自信をもって主体的に音楽活動に取り組むことにつながるんだな。



そうすれば、きっと子どもたちも楽しく学べると思う。そして、音楽の身に付けるべき力がついていくんじゃないかな。



子どもたちが生き生きと追究するグループ学習にするために

- 課題把握の場面では、学習する部分の「聴き比べ」等で、実際の音で課題を把握する場面を設け、子どもたちが追究の意欲、思いや意図をもてるようにしていきましょう。
- 「聴き比べ」の活動等から知覚・感受したことを手がかりに、どこを工夫して表現を高めていくのかを「聴き合う視点」として学習課題に位置づけ、子どもたちがその視点をもとに追究できるようにしていきましょう。

センター研究発表会(2月17日)のお知らせ

平成28年度
長野県総合教育センター
研究発表会のお知らせ

多様化する教育現場の課題に直面している教員を支援する研究調査

平成29年2月17日(金)

総合教育センターが取組んでいる学校教育に関する研究成果の発表により、県内の各学校・教育関係機関等における研究活動の充実、教員の指導力の向上に資することを目的として開催します。
 県内外の小・中・高・特別支援学校の教職員、教育関係機関等の職員の皆様、ぜひ、ご参加ください。

- 会場 **長野県総合教育センター** 〒399-0711 長野県塩尻市片丘南唐沢 6342-4
 日程

【午前の部】

時間	内容
9:40~9:50	開会行事
9:50~11:40	○講演「グローバル時代を生き抜くために」 講師：村上 憲郎 氏  <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> 2003年4月、Google 米国本社 副社長兼 Google Japan 代表取締役社長として Google に入社以来、日本における Google の全業務の責任者を務める。2009年1月名誉会長に就任、2011年1月1日付けで退任し、村上憲郎事務所を開設。 株式会社村上憲郎事務所 代表取締役 / 株式会社エナリス 代表取締役社長 / 東京工業大学 学長アドバイザーボード委員 / 大阪工業大学 客員教授 / 会津大学 参与 </div>
11:40~12:40	昼食 (センター食堂がご利用いただけます)

【午後の部】 各分科会では研究発表をもとに、意見・情報交換や演習をおこないます。

		分科会 1		
12:40~ 14:10 (90分)	A 『職場の同僚性を高め 若手の成長を支える 職場づくり』 	B 『不登校への 対応のあり方を 考える』 	C 『学力向上に つながる 授業づくり』 	
14:10~14:30	休憩 (20分)			
		分科会 2		
14:30~ 16:00 (90分)	D 『個に居場所がある 学級づくり』 ~教師が 子どもと共に歩む 学級づくりを通して~ 	E 『アクティブ・ラーニング の視点に立った 授業改善に 向けて』 	F 『ICTの 効果的な活用と 反転学習の取組 について』 	
16:00~16:10	連絡・アンケート記入			

- 参加費 無料
 参加申込み (締切り 平成29年2月10日(金))
 長野県総合教育センターのホームページから申込書をダウンロードし、郵送またはFAXでお申込みください。

長野県総合教育センター 企画調査部
 (部長) 浅川 桂 (担当) 林 健司
 TEL 0263-53-8802 FAX 0263-51-1290
 E-mail kikaku@edu-ctr.pref.nagano.jp

研修講座から

家庭学習のあり方を考える～子どもの力を伸ばす家庭学習とは～ (6月27日)

この講座は、次の2点を講座のねらいとして実施されました。

- (1) 普段の家庭学習の取り組みを振り返り、自分あるいは自校の課題を明らかにする。
- (2) 講義、実践発表、情報交換を通して、家庭学習改善のための手がかりをつかみ、今後の見通しをもつ。

<講座内容>

講義 「長野県の現状～全国学力・学習状況調査より～」 } 総合教育センター 専門主事 高橋 廣貴
 講義 「求められる学力と家庭学習」 }
 実践発表 「生徒とともに改善した家庭学習」 飯田市立鼎中学校 教諭 田代 博子
 講義 「他県の取組から学ぶ」 総合教育センター 専門主事 高橋 廣貴

◆◆◆感想の抜粋◆◆◆

- ・授業のやり方を見直し、特に「振り返り」を充実させる必要があることが分かった。
- ・「これは自分も取り入れてみたい」と思う内容がありました。まずは「やってみる！」うまくいかなければ「改善してみる」この気持ちを大切にしたい。
- ・家庭学習の内容を「チャレンジコース」などとネーミングするだけでも子どもの学習意欲は変化すると感じた。
- ・情報交換が多く、より実感をもって研修できた。
- ・まずは学年会で学年としての取り組みを提案していきたいです。

講座の資料から

従来の長野県の家庭学習
(自分でやる内容を定める)

- 自分の苦手とする内容ができる
- 生徒の力に応じた内容

メリット

×ただ埋めればよい

↓

作業的な内容

×授業とつながらない

×提出率へのこだわり

デメリット

教頭マネジメント研修でのアンケートより

家庭学習改善の具体的な取組
(2項目まで選択可)



家庭学習の改善が進んでいる

教頭マネジメント研修でのアンケートより

家庭学習改善の推進状況(長野県)



家庭学習の改善が進んでいる

家庭学習の位置づけ



現地に学ぶ人権教育～地域の素材を生かした学びを考える～ (9月9日)

この講座は次の2点をねらいとして、中野市内の現地研修と中野市人権センター南部集会所での講義・演習を中心に実施されました。

- (1) 地域にある素材を活用した人権教育のあり方について理解を深める。
- (2) 講義やフィールドワークの内容をもとに、人権教育の授業を構想する。

<講座内容>

現地研修 講義「現地に学ぶ」 } 講師：部落解放同盟中高地区協議会議長 芝内 敏幸
 視察「草つき穴」 }
 講義・演習 「地域の素材を生かした人権教育」 講師：北信教育事務所 生涯学習課 指導主事 中村 新治

◆◆◆感想の抜粋◆◆◆

- ・芝内さんやこの解放会館そのものからも学ぶことの多い研修でした。
- ・これまで同和問題を授業で扱ったことがなかったが、これから生きていく子どもたちにしっかり知ってほしい、考えてほしいことだと実感した。
- ・「差別はいけない」だけで終わらず、差別に立ち向かっていく人々のたくましさ、強さを大事に取り上げた実践。学校に持ち帰り伝えたいと思います。
- ・現地に足を運んで初めてわかることが多かった。(墓地の場所、雰囲気、穴の大きさなど)



お詫び しのめ90号の研修講座からの“複式学級の授業づくり”の実践発表者の静岡県浜松市立熊小学校教諭川島悦代先生のお名前が途中で改行されてしまいました。また、これに伴い次行が代講義・演習と表記されてしまいましたが講義・演習の誤りです。大変申し訳ございませんでした。